

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式29問 (語句選択10問 正誤判定18問 年代整序 1 問) 記述式18問 計47問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数6題は昨年度と同じ、設問数は1問増えて47問であった。解答形式は、語句選択問題が1問、正誤判定問題が4問減少し、記述問題が5問増加した。昨年度は見られなかった年代整序問題が1問出題された。

出題の特徴

例年通り、大問Iは原始時代の考古学分野に関する問題、大問II～Vはそれぞれ古代・中世・近世・近代の時代別問題であった。大問VIは文化史の問題で、例年通り図版を用いた問題が出題された。

その他のトピックス

本学部では珍しく、本格的な史料問題や戦後史からの出題が見られた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 記述	モースの功績	大問Iは例年通り考古学分野からの出題であった。問6のモースの著書『日本その日その日』は、難。問7は、設問文の「物理学」をヒントに消去法で正解したい。	標準
II	語句選択 正誤判定 記述	桓武天皇の時代 《史料》	問2は、「崇道天皇」が早良親王のことだと知らなくても、史料iの時期や文中の「崇り」をヒントに正解したい。その他の問題は平易なものが多く、確実に得点したい。	やや易
III	正誤判定 年代整序 記述	北条政子の演説 《史料》	承久の乱における北条政子の演説の史料を利用した問題だが、各設問は中世の政治・社会・文化など多岐にわたる。問2は、消去法を駆使して正解に近づきたい。問6の「九条(藤原)道家」は、早稲田大学の志望者であれば正解できてほしい。問7の史料の読取問題は本学部では珍しい。	やや易
IV	語句選択 正誤判定 記述	徳川家斉の治世	問7の列強の接近に対し国内でとられた対応に関する正誤問題は詳細な知識が求められており、難。	標準
V	語句選択 正誤判定 記述	雑誌から見た近現代の諸相	本学部での戦後史の出題は珍しい。問3の自由民権運動に関する正誤問題はやや難で、エとオで迷ったであろう。問4の女性向け雑誌に関する正誤問題も、やや難。問5の雑誌『太陽』は基本事項だが、「博文館の発行した雑誌」から判断するのは、やや難しい。問10の手塚治虫の作品に関する問題は、難。『のらくろ』は田河水泡、『冒険ダン吉』は島田啓三の作品である。	やや難
VI	語句選択 正誤問題 記述	江戸時代の長崎と西洋文化の流入 《図版》	問6はやや難で、アとイで迷ったであろう。アは亜欧堂田善の説明で、昨年度は記述で出題されている。その他の問題は平易なものが多く、確実に得点したい。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

合格点を確保するには教科書を丹念に学習することが必要である。文学部の特徴として大問Iに考古学分野を含む問題、大問VIに文化史が出題されること、そして例年その2つの大問2題は難度が高い。この対策をきちんととることが肝要である。さらに、得点力を向上させるために、過去問演習に取り組むことが必要である。早稲田大学の中でも正誤判定問題が多い学部であり、それが合否を左右することになるのでしっかりと対策したい。また、記述問題への対策として基本的な歴史用語を正確に書く練習をしておこう。